

春です。寒い冬にじっと耐えてきた植物や動物も新たな活動を始めます。

木の葉も同じです。そんな木の葉の一生を通して命について考える絵本が今、発売わずか4ヶ月で11万部と爆発的に売られています。本の名は

「葉っぱのフレディいのちの旅」

この絵本のテーマは、何のために自分は生まれてきたんだろうという疑問に答えるもので、子どもだけでなく人生を振り返る年齢になった人達にも受け入れられているようです。お薦めの絵本です。

< 第 4 5 回 ほほえみの会 >

新会員 2 人を含む 1 4 人と多くの人に参加しました。

新しい 2 人の方は、最初病名を聞いた時には、自分とは全く関係ない世界のことだと思っていたので頭が混乱したが、最近になってようやく受け入れられるようになった。

また小学校入学直前の入院で、学校にこれからどう説明しようか迷う、そして他の子との関わりも気になるとのことです。

中学 2 年生再発で入院。親はショック。

驚き 拒否 怒り 受け入れへと親の心は動いている。

本人は退院後学校へ行ったが体力、学力に遅れがあり学校生活にもつらさがあったようで再びの入院生活もあまり動揺はないようだ。

医師は骨髄移植を前提に治療に入ると言うが、同時に他の病院の医師に治療法を聞くセカンドオピニオンも勧めてくれている。

と について三間屋先生の考えを同封

します

会員の栗尾さんが電子メールで白血病の患者や家族の悩みや疑問に答える「白血病談話室」という活動を始められました。スタッフには医療関係者もいるという事です。

メールアドレスは . . . です。

< 報告 >

ほほえみの会では長泉町に出来る県がんセンターに小児科設置を要望してきましたが、要望通り設置が決まりました。 に三島で報告会があり県の建設準備室 大野室長から説明がありました。

・ 県は高齢化社会を迎えがん患者が増えていることから県立のがんセンター建設を計画。当初小児はこども病院で専門医療をした方がいいだろうという考えだった。

しかし、小児のがん医療が単に医療供給だけの問題でないことが県もわかってきた。アパート暮らしや経済的な問題など患者家族負担の大きな事がわかりがんセンターに小児科を設置することに。合わせてこども病院の機能充実を今計画している。

1 がんセンター

小児ベットは 8 ~ 9 床 骨髄移植病棟内 無菌室は 4 部屋

入院は ・ 陽子線治療が必要な患者

・ 東部地区の患者 しつけや自分の表現が出来る学齢期以降の子どもで乳幼児はこども病院。また中学生以上は成人病棟も可能

医療スタッフ等はこれから検討

2 こども病院

新病棟 ・ 無菌室 2 部屋を含む新病棟を食堂横の駐車場の場所に建設。B 1 病棟建物は壊し他の病棟を建てる。順次建て替えをしていく。

家族宿泊 ・ 正面駐車場横の看護婦寮を改築。2 D K 3 室 1 D K 3 室 冷蔵庫 洗濯機付きアパートに。

今年の夏完成。

毎日新聞社会事業団より会に「小児科病棟 に対する活動助成支援金」10万円を頂けることになりました。使い道を相談したいと思います。

前回お伝えしましたが6月の総会の時に患者兄弟にも参加してもらい、ゲームなどしながら兄弟姉妹の病気について先生から説明をしてもらう機会をつくろうかと思っています。同封のアンケートにお答え頂きご返送下さい。

次回は 4 月 1 1 日 (日) 時からです

ほほえみの会 代表 池田恵一